属人区長の書簡 (2014年9月)

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに!

愛するドン・アルバロの列福の月が 始まりました。9月27日までの日々 が何と長く、また何と短く感じられ ることでしょう。創立者の列福式を 数週間後に控えた時のドン・アルバ 口にとっても同じことだったようで す。今、そのときにしたためられた 言葉を引用します。「主と御母が 人々に十二分に注ごうとお望みの恩 恵を活用するため(…)、内的にしっ かりと準備し、心の中に神を捜し求 めて主との対話を絶やすことなく、 生活規定を細やかな心で果たしなさ い。移動中にあり得る疲れや意に反 することを寛大にお捧げすることで す。| [1] お分かりのように、これ は、今の私たちにもっとも相応しい 勧めです。

これまで、この出来事に向けたしたのというとした内の準備に役立つ多分主をしたが、ているのではないである。これがひというないではいいるのではいいがあれたなく全みなどではいいではいいではいいが、これがらの4週間はそれに拍車をかけるときです。

この望みは、9月という月に祝われる聖母の祝日を通しても強化されるでしょう。事実、毎週聖母の祝日があります。8日は、全面的に聖なるお方で神にもっとも愛された聖母のおります。活ち溢れています。時間から聖母に満ち溢れていられたでいまりをまで、増え続けたのであるともで、ぎに対する信頼を表にしてより頼む絶好のチャンスで

す。もっとも小さなことに至るまで、全ての惨めさを徹底的に清める 恩恵を御子が与えてくださるよう、 聖母に取り次いで頂きましょう。それには、ゆるしの秘跡に細やかな心 で与るよう気をつけ、他の人々が、 よく準備してこのあわれみと喜びの 秘跡に近づくよう手伝うことです。

12日は典礼上マリアのみ名の祝日で す。マリアとお呼びすることはなん という喜びでしょう。イエスのみ名 について聖ベルナルドが「口には 蜜、耳には心地よい調べ、心には歓 喜」[2]と表現したことを、マリア のみ名にも当てはめることができま す。ですから、これからの日々、特 にロザリオを唱えるときアヴェマリア の祈りに特別な思いを込めるようお 勧めします。神がお選びになった甘 美なみ名をいつも新たな心で繰り返 すこの祈りは、困難を容易く克服す るためのバルサム、心の耳に喜ばし

く響く楽の音、程よい味わいのある 食物のようです。

月の半ば15日は悲しみの聖母を思い 起こす日です。聖母は、iuxta crucem lesu,イエスの十字架の下で 御子のいけにえに親密に一致し、私 たちをご自分の子どもとしてお引き 受けになりました[3]。私たちの祈 りには犠牲という調味料が入ってい なければなりません。こうすること によって、主の心を捉え、主の賜を いただくことがより容易くなるで しょう。教会が十字架称賛に続いて 聖母の悲しみを思い起こすのは決し て謂われのないことではありませ ん。聖母は私たちに、「十字架に付 けられたキリストに対する深い信 心、そして神の母であり私たちの母 である聖マリアに対して思いやりの 深い信心を持つよう」お望みです。 「マリアは苦しみに魂をえぐられな がらも独り、ほとんど独りきりで、

気丈にも十字架の足もとを離れませ ん。

子どもたちよ、自分で考えてください。主に何か申し上げなさい。聖師にも一言を。悪意の人々の視線にはれ、侮辱されている聖母と問置からなれば口にするであるとすれば口にするであるとすれば口にするであるとし上げなさい。望には、御子に対する愛ゆえに、望には、御子に影けられ、汚名と恥得いでなのです。」[4]

その上15日は、ドン・アルバロがオ プス・デイの先頭に立つ、聖ホセセ リアの最初の後継者に選出された記 念日です。度々カードの祈りを思え て、教会とオプス・デイ、世界と記 て、教会とオプス・の取次ぎん とオプス・の取対する人 ます。敵対する人 家族間の不和から崩壊している 変 に、そして分かれ争う世界、この悲 しい状況の対極には、旧約聖書で告

げられ、新約聖書で力強く宣言され ている平和と一致という神の約束が あります。これは「神が既に私たち のために準備しておられることで、 私たちを希望で満たしてくれます。 他方、この約束は一つの掟と不可分 に結ばれています。すなわち神に立 ち戻り、心を込めて神の法に従うこ とです(創世記30,2-3参照)。和解と 一致と平和は神の賜ですから、回心 の恩恵と親密に関わっています。心 を改めることによってのみ、一人の 人間としてまた一つの国として、生 活と歴史を変えることができるので す。| [5]

最後に、9月24日。あるところでは メルセスの聖母の祝日になっていま す。この信心はオプス・デイの歴史 に深く関わっています。創立者は 度々この聖母像の前で祈りました。 特に1946年、最初のローマへの旅行 の前後の訪問には特別な思いが込め られていました。ドン・アルバロの 助けを受け、心からの信頼を込めて、これに続く日々の霊的な実りを その御手に委ねます。

先月の手紙でしたためたことです が、今月も世界の種々の所で苦しん だり、信仰ゆえに迫害されたりして いる人々を決して一人きりにしない ようお願いします。物理的に離れて いても苦しんでいる人々を、祈りと 犠牲で支えることができますし、可 能ならば物的な援助をすることもで きます。何よりも、私たちは、キリ スト者としての義務をより忠実に果 たすことで助けることができるので す。聖ホセマリアがこう述べていま す。「私たちの使徒職活動は、平和 と正義を根付かせ、人々をお互いに 協力するように仕向け、争いと孤独 を取り除き、国家や個々人を利己主 義に陥らないよう助けます。という のも、私たちは大きな人類家族の一 員として、神のみ旨によって完全な ものになるよう導かれている存在で あることを、人々に気づかせる活動 だからです。」[6]

戦争は全て、人類にとっての災難で すが、特にそれが神の名の下に偽り と冒涜に端を発したものならなおさ らひどいことです。教皇フランシス コーその前任の方々一が度々、告発 しておられることです。ここ数週間 のイラクにおけるキリスト者と他の 宗教団体の状況は非常に悲惨でし た。シリアやナイジェリア、そして他 のところでも同じことが起こってい ます。私たちの兄弟姉妹たちが遭遇 している残忍さを前にして、聖マル タ寮の小聖堂における早朝ミサでの 教皇様の説教が現実のこととして思 い浮かびます。「現代は、初代教会 におけるよりも数多い証聖者や殉教 者が出ています。このミサでは、こ こローマにおける光栄ある先駆者た ちを思い起こすと共に、迫害を受け ている兄弟姉妹のことを考えましょ う。彼らの苦しみと彼らが流した血

によって、生まれ出た多くの小さな 教会の種が芽生え成長しているので す。彼らのため、そして私たちのた めにも祈りましょう。」[7]

この列福の月には、ドン・アルバロ に、世界の平和のため、そして特に 迫害を受けているキリスト者と、信 条ゆえに攻撃されている善意の人々 の慰めをお願いしましょう。ドン・ アルバロご自身、青年時代に宗教迫 害に遭遇し、主がお望みなら殉教す る覚悟さえしておられたことがある のです。というのは、スペインの市 民戦争が始まったばかりの徴兵検査 の時、民兵たちがポケットの十字架 に気づいたのです。あの当時は、そ れだけで投獄や厳罰の対象になって いたのです。

同じようなことが投獄されていたときにもありました。看守たちから脅迫され、こめかみにピストルを突きつけられたこともあったほどでし

た。主に全てを委ね、僅かなりとも 信仰や望徳にもとる態度を示すこと なく、心の中でそれを温めていまし た。今は、私たちの祈りを特別効果 的に神に取り次いでくださることを 確信しています。聖ホセマリアが同 じような状況下で書き止めた言葉を 繰り返すことができるでしょう。

「宗教を憎む人たちによって牢に入れられた司祭がいたが、その司祭のためにあの友が唱えていた祈りは本当に美しい。繰り返す値打ちがある。『私の神よ、彼を慰めてやってください。あの司祭は御身のために迫害を受けています。御身に仕えているのです』。」[8]

それと同時に、現代の新たな殉教者 たちに真の信仰をもってより頼み、 天国から私たちを支えてくれるよう お願いしましょう。そして私たち が、家庭や住んでいる地域や町で、 自国や世界中で、また貧しい人や病 人の間で、キリストの愛の証人となることができるよう助けてくださいと頼みましょう。私たちキリスト信者が皆、彼らのように、世の中で光輝くともし火になることができますように。現代社会には平和と喜びの種まき人がぜひとも必要なのです。

9月27日と28日にはマドリードで、 30日にはローマで行われる典礼の準 備のことに話を戻します。新福者が こう勧めています。「もたらされる 指示をでき得る限りよく実行してく ださい。些細なことですが、式典が スムーズに執り行われ、参列する 人々が霊的に活用することを助ける ために必要なことです。何よりも、 子どもたちよ、この日々を超自然的 な観点をもって過ごし、典礼におい ては、自然な態度で単純にあなた方 の敬虔さを表しなさい。| [9]

この勧めを、共に式典に与る一遠く や近くの一全ての人々に伝えるよう 努めましょう。列福式のミサと翌日 の感謝ミサに与る皆にとって、司式 者の祈りにゆっくりと一致して答え ることは大きな喜びになるでしょ う。「そしてミサの歌一神への感謝 と喜びの歌一が、愛の力強さで響き 渡り天まで届くでしょう。et clamor meus ad te veniat,この叫びがあなた に届きますように(詩篇102,2)。これ は一ドン・アルバロの結論一唯一の 叫び一あなた方の祈りと歌一でなけ ればなりません。それは、典礼儀式 で聞かれ(…)、超自然的で祈りの精 神が染み透り、おちついた喜びに満 ちているはずです。| [10]

同時に、初金の聖体顕示の礼拝では さらに愛を込めて与り、ドン・アル バロが愛してやまなかった告解の使 徒職と教皇様とそのご意向のための 祈りを強化することです。昨日、皆 さんのアソシエートの兄弟二人に叙 階の秘跡を授けました。特に二人の ため、また全ての司祭のために祈ってください。

特別な喜びを込めて、一皆さんと共 に一ベネズエラの子どもたちに会え たことをお知らせします。そこで私 は司祭叙階の記念日を過ごしまし た。彼らの使徒職に多くの実りをも たらすことになるでしょう。

これでペンをおくことにします。祈りのうちに皆のことを、特に一様々な事情で一ドン・アルバロの列福式に与ることのできない人たちを思い起こしていることを、確信してください。すでに言ったように、皆、祈りと意向において固く一致していましょう。

心からの愛を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

†ハビエル

トレシウダ、2014年9月1日

[1]ドン・アルバロ、1992年4月27 日手紙。

[2]聖ベルナルド、「雅歌について」説教15番,III, 6番("Opera Omnia"ed. Cister. 1957,I, p.86)。

[3]ヨハネ19,26-27参照。

[4]聖ホセマリア、1970年9月15日 説教のメモ(「道すがら語りつつ」邦 訳237ページ)。

[5]教皇フランシスコ、2014年8月 18日ソウルでの説教。

[6]聖ホセマリア、1932年1月9日手 紙38番。

[7]教皇フランシスコ、2014年6月 30日説教。 [8]聖ホセマリア、「鍛」258番。

[9]ドン・アルバロ、1992年4月27 日手紙。

[10]同上。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2014nian-9yue/ (2025/12/16)